

大阪総合デザイン専門学校

学校関係者評価報告書

(平成25年度)

実施日＝平成25年11月12日

学校法人上田学園

大阪総合デザイン専門学校

学校法人上田学園 大阪総合デザイン専門学校 学校関係者評価報告書について

学校法人上田学園は、平成20年に、学校自己評価制度導入を図るために、自己点検部会を設立し、組織的な体制を築きました。その後、平成23年度より「学校自己評価報告書」を取りまとめ、平成24年6月、平成25年6月に本学園のホームページ上に公表いたしました。

また、平成25年度には、本校に関係の深い方々からご意見等を頂戴し、今後の学校運営に反映させ、改善を図るべく「学校関係者評価」を実施いたしました。学校関係者評価委員会では、第三者の視点に立った、多くの貴重なご意見、ご指導を賜り、改めて学校関係者評価の重要性を認識した次第です。ここに学校関係者評価の内容についてご報告いたします。

今後もより良い学校運営、教育活動を目指し、教職員一同尽力して参りますので、関係者の方々をはじめ皆様の、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年11月

学校法人上田学園 理事長 上田哲也
大阪総合デザイン専門学校 校長 越田英喜

1. 「学校関係者評価」の実施について

今回の学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に則し実施した「平成24年度学校自己評価報告書」に基づき、本校と関係の深い3名の学校関係者評価委員の方々に評価して頂きました。

各評価委員には、事前に「平成24年度学校自己評価報告書」及び「学生授業アンケート結果」等の学校評価に関連する資料を配布した上で、学校関係者評価委員会でご意見を頂戴しました。

評価委員からのご意見は、校長が承り、その内容等について要約の上、報告書として取り纏めました。

平成24年度学校自己評価報告書と併せてご覧いただければと存じます。

2. 学校関係者評価委員一覧表

評価委員	当校との関係属性等	備考
井村 良裕	オフィス・トライアド井村アトリエ 代表 同窓会長・評議員のお立場でのご参画。 毎年、卒業制作の中から同窓会会長賞を選出頂いております。	委員長
鵜飼 隆	(有)タイトルアート 代表取締役 卒業生を継続的に多数ご採用頂いております企業様の代表としてご参画。	
杉本 清	元大阪府職員 長年にわたり、地域のデザイン振興に寄与されて来られた業界の専門家としてのご参画。	

3. 学校関係者評価委員会 次第（平成25年11月12日開催）

1. 校長挨拶
2. 学校関係者評価に係る経緯説明
校長より、「職業実践専門課程」並びに「学校関係者評価委員会」に関する説明。
その後、委員会規定、役割等について説明。
3. 各委員の紹介の後、規定に基づき、委員長の選出
評価委員全員のご了承を頂き、同窓会長で評議員でもある井村良裕氏を委員長に選出。
4. 「学校自己評価報告書」に基づき、下記4点を判断基準に、各評価項目を読み上げ、「中長期経営計画」等、適宜補足説明を加えた上で、評価委員より意見及び助言を聴取し、検討。
判断基準
 1. 自己評価の結果の内容が適切か否か
 2. 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切か否か
 3. 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切か否か
 4. 学校運営の改善に向けた実際の取組みが適切か否か
5. 校長よりお礼の言葉

大項目別 学校関係者評価結果 意見・助言

1	教育理念 目的 人材育成 像	評価項目		適切:4、ほぼ適切:3 やや不適切:2、不適切:1
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の特色は何か ・学校の将来構想を抱いているか 		④ 3 2 1
		意見 助言	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念の一つである「時代性」を正しく反映した学科構成となっており、50年近い歴史の中で、常に成長してきたことは評価に値する。 ・特色として挙げられている「漫画・コミックアート」に重きが置かれていることは分かるが、従来のデザイン系の学科「インテリア・ビジュアルコミュニケーション」も特色として位置づける必要がある。 ・今後も若者・業界のニーズを敏感にキャッチアップし、社会構造の変化に対応しうる人材の育成に努めてほしい。 	
2	学校運営	評価項目		適切:4、ほぼ適切:3 やや不適切:2、不適切:1
		<ul style="list-style-type: none"> ・運営方針は定められているか ・事業計画は定められているか ・運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか ・人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか ・意思決定システムは確立されているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか 		4 ③.5 3 2 1
		意見 助言	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期経営計画により、戦略的に経営計画が定められており、それに基づいて学校運営がなされていることが分かった。 ・意思決定システムは確立されているが、効率的に機能するように、更なる検討をお願いしたい。 ・学園に帰属する組織と学校単立の組織があり、学園の組織に関しては、学校としての取組みが明確になっていないように思われる。 	
3	教育活動	評価項目		適切:4、ほぼ適切:3 やや不適切:2、不適切:1
		<ul style="list-style-type: none"> ・各学科の教育目標、人材育成像は、その学科に対応する業界のニーズに向けて正しく方向付けられているか ・各学科の教育目標、人材育成像を構成する知識、技術、人間性等は、業界のニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか ・カリキュラムは体系的に編成されているか ・学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか ・授業評価の実施体制はあるか 		④ 3 2 1

3	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・資格取得の指導体制はあるか ・地域社会との連携や地域性を活かした教育活動が行われているか 	
		<p>意見助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科構成自体が時代性を反映したものとなっており、カリキュラムに選択科目を組み込むことで、自由度をもたせ、関連分野の幅を広げている。 ・学科とは別に基礎科を設置し、基礎科目にも力を入れることで、初学者にも学びやすい環境になっている。 ・学生の授業アンケートも実施されており、学生の声を活かした授業計画・体制が整備されることが望まれる。 	
4	教育成果	<p>評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか 	<p>適切:4、ほぼ適切:3 やや不適切:2、不適切:1</p> <p>4 (3.5) 3 2 1</p>
		<p>意見助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス系の学科と作家系の学科で、就職状況等に差がある。社会構造の変化に迅速に対応できるような体制作りが必要。 ・社会的にも学生のコミュニケーション能力の低下が言われているが、元々クリエイター志望の学生は、内向的な傾向にあり、社会人としての教育も必要と思われる。 ・「知的財産権」「カラーコーディネート」など、資格取得がカリキュラムに組み込まれている科目もあり、資格取得率の向上が図られている。 ・退学率 10%以下という目標は定められているが、メンタル面・経済面などの問題を抱える学生が増加傾向にあり、対応に苦慮している様子が伺える。 	
5	学生支援	<p>評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか ・学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか ・学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか ・学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか ・課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか ・学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか 	<p>適切:4、ほぼ適切:3 やや不適切:2、不適切:1</p> <p>④ 3 2 1</p>

5	学生支援	意見 助言	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、臨床心理士のカウンセリング、就活クラブなど個別指導に力を入れ、きめ細かに対応していることは評価に値する。 ・経済面でも様々な奨学金を設定し、支援している。 ・学科構成が流動的に変更されているため、既に廃止になっている学科の卒業生との連携、支援体制の整備が必要ではないか。 	
6	教育環境	評価項目		適切:4、ほぼ適切:3 やや不適切:2、不適切:1
		<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか 		4 ③ 2 1
		意見 助言	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化、グローバル化など時代の変化に迅速に対応できるような継続的なITインフラが課題と思われる。 ・校舎の構造上の問題で、スロープなどが設置できず、身体障害者の受入れにおいては課題が残っている。 ・学校としてのイベントへの出展など学生の社会参加への機会を増やす支援も必要ではないか。 	
7	学生の募集と受け入れ	評価項目		適切:4、ほぼ適切:3 やや不適切:2、不適切:1
		<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集において、教育成果は正確に伝えられているか ・入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか ・学納金は妥当なものとなっているか 		④ 3 2 1
		意見 助言	<ul style="list-style-type: none"> ・学校パンフレットを見ると情報が正確に伝えられ、適正に募集活動が行なわれていると思われる。 ・外部評価に関しては、過去に受けたとなっているが、継続的にモニタリングを受けることも必要ではないか、方策として考えてほしい。 	
8	財務	評価項目		適切:4、ほぼ適切:3 やや不適切:2、不適切:1
		<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行なわれているか ・財務情報公開の体制整備はできているか 		④ 3 2 1
		意見 助言	<ul style="list-style-type: none"> ・財務情報を公開し、会計監査も適正に行なわれており、問題はないと思われる。 	

9	法令等の遵守	評価項目		適切:4、ほぼ適切:3 やや不適切:2、不適切:1
		<ul style="list-style-type: none"> ・法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ・自己点検・自己評価結果を公開しているか 		4 (3.5) 3 2 1
		意見 助言	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護推進部会を設置し、積極的に取り組んでおり、今後もネット上の情報流失など対策に努めてほしい。 ・毎年自己評価を実施し、結果を公開しているが、報告書に第三者の視点が欠けているように思う。分かりやすく伝えることも必要ではないか。 	
10	社会貢献	評価項目		適切:4、ほぼ適切:3 やや不適切:2、不適切:1
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 		4 (3) 2 1
		意見 助言	<ul style="list-style-type: none"> ・産学協同で取り組んでいる地域活性化や地元で開催されるイベントへの参加も社会貢献として捉え、活動の幅を広げてほしい。 ・現在実施していないボランティア活動などにおいても、導入に当たっての問題点の洗い出しなど、検討が必要ではないか。 	
11	国際交流	評価項目		適切:4、ほぼ適切:3 やや不適切:2、不適切:1
		<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学支援や海外との連携による国際教育交流の体制があるか 		4 (3.5) 3 2 1
		意見 助言	<ul style="list-style-type: none"> ・学園の組織として、国際交流課を設置し、英国をはじめ海外の教育施設と姉妹校締結活動を積極的に行なっており、総合校としても学科の特性を活かし、フランスのクールジャパンイベントやスペインの大学との作品交流を図り、学生の国際化に力を入れていることは評価できる。 ・留学生に関しては、募集活動だけでなく、卒業後も母国での就職活動など相談を受ける体制づくりが望まれる。 	
今後の学校運営の方向性に対する総合的な助言		<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育理念に「時代性」が掲げられており、学科構成が時代性を反映したものとして、常に成長的な変革を続けているところが、まさしく本校の特色であり評価に値する。 ・今後も更に、めまぐるしく変化する若者のニーズをキャッチアップし、人口減少社会において、産業構造の変化に対応できる人材育成教育の在り様を探求し続けることが必要不可欠である。 		

* 学校関係者評価委員会での全委員のご意見を踏まえて、委員長より4段階評価を受け、全委員の承認を得ました。

5. 終わりに 校長から各委員に貴重なご意見を頂戴したお礼の挨拶を行い、今後の学園・学校運営の改善に活用することをご報告し、閉会となった。

以上